大音量で放
放送を聞い
は割り込み
放送が流れ

団体を対象
台を千円で
が明瞭に受
件。受信し
川、香南、
ては、別の
災ラジオの
町は塩江ケ
クで対応す

りは8月29
ティーセン
け付ける。
提供時期は
込み。問い
087〈834〉

さらなる高み目標に

「夢は三豊・観音寺を地域で一番の福祉の町にすること」。魅力的な若者に贈られる今年の「高松人間力大賞」に選ばれたNPO法人ラーフ理事長の毛利公一さん(33)＝観音寺市＝は、こう言って目を輝かせる。

中学・高校・大学と、棒高跳びの選手として全国で活躍。10年前、米国で頸髄を損傷する事故に遭い、医師から「一生、呼吸器を付けたままの寝たきり生活」と宣告され、アスリートとしての夢が絶たれた。懸命のリハビリの末、呼吸器なしで生活できるまでに回復すると、居宅訪問介護サービスを手掛けるNPOを立ち上げ、当事者の目線で事業に取り組んできた。

人前に出るのをためらっていた体験から、障害者にも街に出てもらいたいと始めたファッションショーやふれあい夜市といったイベントの成功も受賞理由の一つだが、支えてくれる多くの人との出会いが最大の喜びであり、励みという。

ラーフは英語で「声を上げて笑う」の意。「体が不自由でも寝たきりでも、家の外に出て、人と触れ合えば、笑顔が広がる」。そんな信念を貫き、さらに高く羽ばたく覚悟でいる。自身の夢はもちろん、自分の足で立って歩くことだ。

「当事者だからこそ分かることがある」と話す毛利さん

あの人　この人

精神分析で心に光を

「生きることに困っている人を助けたい」と語る精神分析家向井雅明さん(65)＝高松市＝。自宅と東京を拠点に精神分析相談室を開き、自閉症や対人不安など心の病を抱える患者と向き合っている。

「無意識の存在」を重視する精神分析をパリの大学で学んだ。2012年の著書「考える足」の中では、人間の行動は脳の細胞の働きだけで説明しきれないことがあると説く。「他の動物と決定的に違うのは、言葉がわれわれの存在を作り上げていること。人間の精神的な症状は、話すという行為で解決し得る」。

相談室で患者に実践しているのは、頭に浮かんできた考えをすべて言葉にする「自由連想法」。時間は15分や1時間などさまざま。会話はしない。患者は繰り返すうちに自分の抱えた問題を話し始めるという。話すと楽になる。生きやすくなる。薬の処方や他人からの説得に頼ることなく、その人自身に考えさせて解決法を見つけ出していく。

今後は他国より少ないとされる国内の精神分析家の養成が目標。「日本でも精神分析で助かる人は多い。この分野の認知度を高め、信頼を築いていかなければならない」と力を込めた。

「精神分析の裾野を広げたい」と話す向井さん

まんのう町体育館壁面変更

「建築基準法に適合」

数カ所見つかったと報告されている。

県の検証結果を受けて栗田町長は「今後、図面と実際の建築物との整合調査進めていく」とコメントした。

しんらん親鸞

完結編

五木寛之

画／山口晃

心なえる日々（2）

「おはいり」

親鸞は坐りなおして唯円を部屋招じいれた。

「お仕事中に申し訳ありません」

唯円が恐縮した様子で頭をさげた。

「いや、ぼんやりとさまざまなこと思い返していた。東国の善鸞に文をきかけては、迷うことが多くて筆がすまないのだよ」

「そのことでございます」

唯円が膝をのりだすようにしていた。

「わたしは善鸞さまのことが、気にってならないのです」

親鸞はだまってうなずいた。東国善鸞からは、ときたま便りがあり、鸞はそのつどそれを唯円にも読ませ